

『彼に信頼する者は、失望させられることがない』

ローマ人への手紙 10:9~11

序]

今週は受難週。イエスの母マリヤの通った悲しみを通して、失望に終わらない信仰を学ぶ。

本]

Ⅰ マリヤの人となり

受胎告知や年一回の神殿詣にいく姿から、信仰厚き人。また夫ヨセフは大工で、イエス様も青年期は大工として働かれていた。家庭でも幸せな日々を過ごしていた。

Ⅱ マリヤの試練

- ①シメオンによってわが子の運命を知る(ルカ2:34・35)。
- ②聖書にははっきりとは記されていないが夫ヨセフの死(多くの聖書学者の共通理解)。
- ③愛する息子の十字架での死。

大工で多くの木材に囲まれ、大切な見慣れた道具釘や金槌が息子の命を奪う道具として使われてしまった。この悲しみの大きさは測り知れない。

Ⅲ マリヤがこの苦しみから立ち上がった方法

- ①みことば(ルカ24:7・8)… 十字架と復活の預言。
- ②祈り(使徒1:14)… イエス様昇天後、弟子たちと心を合わせて祈る姿。
一人の祈りも大切だが、同じ課題を、心を合わせ祈り合うことの大切さを教えてくれる。
祈祷会はその意味でも大切な集会。

Ⅳ マリヤの土台にあったもの—

「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるからです。」ローマ書10:9-10

- ①イエスは主であるとの告白
- ②十字架と復活を信じる信仰。

結]

確かにマリヤは失意の中を通ったが、この信仰があったため、救い主の誕生・十字架・復活・ペンテコステの証人になることが出来た。マリヤだから出来た、あるいは彼女だったから素晴らしいというのではなく、私たちクリスチャンもそのような歩み出来るし期待されている。その事のためにイエスキリストは十字架にかかり、復活された。その恵みを信じて歩ませて頂こう。